

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年2月29日

関東運輸局

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	地方運輸局等における二次評価結果	備考
							評価結果	
埼玉県生活交通確保対策地域協議会	国際興業株式会社	運行区間: [起点]飯能駅 [主な経由地]名栗車庫 [終点]名郷	目標達成継続に向けて飯能市と協調し、地域住民や観光客を取り込めるよう生産性向上の施策を中心に取り組みを行った。継続的に実施している高齢者定期的販売促進、ノーラ名栗でのイベント開催における増客に加え、新規の取り組みである支線系統との乗継による当該系統の増客施策を実施した。	A 生産性向上の各施策は予定通り実施された。	B 輸送人員について、事業対象期間(令和5年度)の目標305,047人に対し実績246,471人であり、目標を下回った。(目標比▲59千人、前年度比+14千人)、収支率については前年より1.4%改善した。 目標との差としては、コロナ禍からの需要の戻りが完全でないことに加えて新規施策の支線系統との乗り継ぎ人員が目標未達となったことも挙げられる。	・生産性向上の施策を中心に沿線自治体である飯能市と連携して取り組みを行い収支率の向上を図る。特に支線系統との乗継については接続の見直し等で利用促進を進める。	・事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。 ・目標・効果達成状況については、概ね目標を達成しており評価できる。結果の要因を分析し、需要動向や事業の実施状況の把握に努めること。 ・観光との連携や自治体との連携による地域のニーズに合った地域公共交通の確保に向けた利用促進策を実施したことは評価できる。引き続き生産性向上の取組を実施することが望ましい。	
	朝日自動車株式会社	[起点] 五霞町役場 [主な経由地] 桜まつり会場(まつり開催時) [終点] 幸手駅	①桜まつりが開催され、多くのお客様にご乗車いただいた。また、桜以外の季節の花を目標にしたお客様にご乗車いただいた。 ②渋滞が発生し、定時運行に大きな影響が出た。 ③令和4年11月、五霞町のイベントに合わせて乗り方教室を実施した。 ④関係自治体と検討中。 ⑤関係自治体と検討中。なお、令和6年秋以降数年間にわたり、橋梁架け替え工事による迂回運行を実施予定。 ⑥車内換気及び消毒等を実施。	B 新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の事業が計画に位置づけられたとおり実施することができなかった。	A 輸送人員目標48,895人に対し実績は49,743人となり目標を達成した。 達成理由として、新型コロナウイルス感染症により離れていた利用者が回復基調にあること、桜まつりが再開し、権現堂の桜や紫陽花等の観覧を目的とした観光利用者も増加したことが理由と考えられる。	・桜まつり開催時は渋滞が発生するため、関係各所と連携しバスの定時性確保を図り利用増に繋げる。 ・バスの乗り方教室を実施し需要の掘り起しを図る。 ・利用実態に合わせたダイヤ改正の実施。 ・橋梁架け替え工事に伴う迂回ルートを検討。 ・引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を実施し安心して利用できるバス車内の環境保持に努める。	・事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。 ・目標・効果達成状況については、概ね目標を達成しており評価できる。結果の要因を分析し、需要動向や事業の実施状況の把握に努めること。 ・観光客を含めた交流人口への利用促進策については、アフターコロナにおける利用状況等の検証を行うとともに、来訪者の動向を調査し分析を行った上で、効果的な利用促進策の検討を進めていくことが望ましい。	
	朝日自動車株式会社	[起点] 本庄駅南口 [主な経由地] 連雀町・児玉高校 [終点] 児玉折返し場・赤城乳業千本さくら工場	①令和4年9月～10月と令和5年3月～4月の共通学生フリーバス販売時期に合わせ沿線学校や、自社ホームページ及びバス車内で周知し、販売促進を図った。 ②赤城乳業のHPに交通手段を掲載し、工場見学者の利用を促進した。 ③令和5年4月より運行を開始した。 ④車内換気及び消毒等を実施。	A 事業が計画に位置付けられた通り、適切に実施された。	B 輸送人員目標157,192人に対して実績は153,164人となり目標未達成となった。 未達成理由として、新型コロナウイルス感染症の影響からは回復基調にあるが完全には戻り切っていないこと、また、運行回数比率が申請番号4より低まり、乗客が転移したことが理由と考えられる。	・引き続き共通学生フリーバスの販売促進を図る。 ・赤城乳業工場見学者へのPR活動を実施。 ・児玉高校経由便の継続運行。 ・引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を実施し安心して利用できるバス車内の環境保持に努める。		
	朝日自動車株式会社	[起点] 宮本町車庫 [主な経由地] 本庄駅南口・連雀町・児玉高校 [終点] 児玉折返し場・赤城乳業千本さくら工場	①令和4年9月～10月と令和5年3月～4月の共通学生フリーバス販売時期に合わせ沿線学校や、自社ホームページ及びバス車内で周知し、販売促進を図った。 ②赤城乳業のHPに交通手段を掲載し、工場見学者の利用を促進した。 ③令和5年4月より運行を開始した。 ④車内換気及び消毒等を実施。	A 事業が計画に位置付けられた通り、適切に実施された。	A 輸送人員目標48,521人に対して実績は56,709人となり目標達成となった。 達成理由として、新型コロナウイルス感染症の影響からは回復基調にあること、運行回数比率が申請番号3より高まり乗客が転移したことが理由と考えられる。	・引き続き共通学生フリーバスの販売促進を図る。 ・赤城乳業工場見学者へのPR活動を実施。 ・引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を実施し安心して利用できるバス車内の環境保持に努める。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	地方運輸局等における	備考
							二次評価結果 評価結果	
埼玉県生活交通確保対策地域協議会	朝日自動車株式会社	[起点] 本庄駅南口 [主な経由地] 小島南・沖電気前 [終点] 神泉総合支所	①令和4年9月～10月と令和5年3月～4月の共通学生フリーパス販売時期に合わせ沿線学校や、自社ホームページ及びバス車内で周知し、販売促進を図った。 ②沿線施設との企画乗車券導入に向けての協議は新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し見送った。 ③令和5年4月より移転した神泉総合支所への路線延伸を実施。 ④車内換気及び消毒等を実施。	B 新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の事業が計画に位置づけられたとおり実施することができなかった。	B 輸送人員目標163,409人に対して実績は154,650人となり目標未達成となった。未達成理由として、新型コロナウイルス感染症の影響からは回復基調にあるが完全には戻り切っていないことが理由と考えられる。	・引き続き共通学生フリーパスの販売促進を図る。 ・路線延伸を継続し、接続する町営バスとのシナジー効果を狙う。 ・沿線施設との企画乗車券を検討し観光需要を取込む。 ・引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を実施し安心して利用できるバス車内の環境保持に努める。		
	イーグルバス株式会社	運行区間: [起点]小川町駅 [主な経由地]和紙の里 [終点]白石車庫	前年の事業評価結果に基づき、引き続き沿線行事・イベントの参加者や公共交通会議委員、沿線町村職員への路線バス利用喚起を自治体と連携し実施する予定であったが、期中まで新型コロナウイルス感染拡大の警戒による行事・イベントの中止や縮小開催の影響、また、乗務員不足によるイベントにおける臨時輸送の対応が行えなかったことにより、多くの取り組みが行えなかった。但し、路線沿線保育園へのバス教室、バス車内への絵画の掲出実施により、路線沿線住民への路線バスへの意識向上、利用促進は実施できた。	B 期中まで新型コロナウイルス感染拡大の警戒による行事・イベントの中止や縮小開催の影響、また、乗務員不足によるイベントにおける臨時輸送の対応が行えなかったことにより、多くの取り組みが行えなかった。但し、路線沿線保育園へのバス教室、バス車内への絵画の掲出実施により、路線沿線住民への路線バスへの意識向上、利用促進は実施できた。	C 輸送人員の目標41,730人に対して実績は35,770人で目標未達となった。要因は生産性向上の取り組み不十分の他、乗務員不足による減便が影響されたと推察される。	東秩父村、小川町、寄居町と連携し、路線バス利用喚起策を実施すると共に、他交通モードとの連携、乗務員不足の解消。	・事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。 ・目標・効果達成状況については、設定した目標を大きく下回る結果となった。結果の要因を分析し、需要動向や事業の実施状況の把握に努めること。 ・観光客を含めた交流人口への利用促進策については、アフターコロナにおける利用状況等の検証を行うとともに、来訪者の動向を調査し分析を行った上で、効果的な利用促進策の検討を進めていくことが望ましい。	
	イーグルバス株式会社	運行区間: [起点]小川町駅 [主な経由地]バトリアおがわ [終点]和紙の里	前年の事業評価結果に基づき、引き続き沿線行事・イベントの参加者や公共交通会議委員、沿線町村職員への路線バス利用喚起を自治体と連携し実施する予定であったが、期中まで新型コロナウイルス感染拡大の警戒による行事・イベントの中止や縮小開催の影響、また、乗務員不足によるイベントにおける臨時輸送の対応が行えなかったことにより、多くの取り組みが行えなかった。但し、路線沿線保育園へのバス教室、バス車内への絵画の掲出実施により、路線沿線住民への路線バスへの意識向上、利用促進は実施できた。	B 期中まで新型コロナウイルス感染拡大の警戒による行事・イベントの中止や縮小開催の影響、また、乗務員不足によるイベントにおける臨時輸送の対応が行えなかったことにより、多くの取り組みが行えなかった。但し、路線沿線保育園へのバス教室、バス車内への絵画の掲出実施により、路線沿線住民への路線バスへの意識向上、利用促進は実施できた。	C 輸送人員の目標18,003人に対して実績は12,699人で目標未達となった。要因は生産性向上の取り組み不十分の他、乗務員不足による減便が影響されたと推察される。	東秩父村、小川町、寄居町と連携し、路線バス利用喚起策を実施すると共に、他交通モードとの連携、乗務員不足の解消。		
	国際十王交通株式会社	運行区間 [起点]熊谷駅 [主な経由地]南河原支所 [終点]犬塚	・共通学生フリーパス(定期券)、スクラムバス(高齢者定期券)発売時期に合わせて自社ホームページ及びバス車内で周知し、販売促進を図った。 ・行田市立南河原小学校でバス乗り方教室を実施した。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により南河原ふれあい祭りが中止となった。	A 事業が計画的に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 輸送人員目標114,676人に対して実績164,053人となり、目標を上回った。要因としては新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者が大きく減少していたが、感染者の減少等による利用者増が考えられる。	新型コロナウイルス感染症の影響により減少していた利用者数が回復傾向にあるが、熊谷市・行田市と連携して路線バス利用促進に取組む。	・事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。 ・目標・効果達成状況については、目標を達成しており評価できる。結果の要因を分析し、需要動向や事業の実施状況の把握に努めること。 ・観光客を含めた交流人口への利用促進策については、アフターコロナにおける利用状況等の検証を行うとともに、来訪者の動向を調査し分析を行った上で、効果的な利用促進策の検討を進めていくことが望ましい。	

第三者委員会における各委員からの意見

令和5年度地域公共交通確保維持改善事業第三者評価委員会における委員による以下の助言は、今後の取組を行う上で必要な観点であり、考慮されたい。
○コロナ後の動向や人手不足など様々な側面で今が変わり目である。
○地域とコミュニケーションをとりながら、データに基づき地域全体の将来像を打ち出し具体的な目標を立てて、成果や課題など数字で示すことが重要。